

第 11 回
全国果樹技術・経営コンクール
受賞者の概要

主 催 全国果樹技術・経営コンクール実行委員会
全国農業協同組合中央会
全国農業協同組合連合会
日本園芸農業協同組合連合会
全国果樹研究連合会
財団法人中央果実生産出荷安定基金協会

後 援 農 林 水 産 省
日 本 農 業 新 聞

第11回全国果樹技術・経営コンクール 受賞者

○農林水産大臣賞

山形県	大町さくらんぼ生産組合
福島県	大槻 善治
静岡県	竹平 伸敏
愛知県	福岡 憲三

○農林水産省生産局長賞

青森県	福士 忍 顕 彩子
山梨県	笛吹農業協同組合 富士見支所ハウスブドウ部会
佐賀県	米倉 伸
長崎県	指方 博之 文子
宮崎県	宮崎中央農業協同組合 ハウス金柑部会
沖縄県	兼島 弘実

○全国農業協同組合中央会会長賞

三重県	一志東部農業協同組合 香良洲梨部会かがやきプロジェクト
香川県	香川豊南農業協同組合 梨部会

○全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞

岩手県	新岩手農業協同組合 北部地域りんご生産部会
和歌山県	阪本 龍哉

○日本園芸農業協同組合連合会会長賞

山梨県	相山 竜夫
大分県	県南柑橘研究会ハウスデコポン研究会

○全国果樹研究連合会会長賞

鳥取県	橋本 保
大分県	梅田 浩司

○(財)中央果実生産出荷安定基金協会理事長賞

北海道	三谷 將
秋田県	かづの農業協同組合 北限の桃生産部会

○全国果樹技術・経営コンクール実行委員会委員長特別賞

大阪府	飛鳥ワイン株式会社 仲村 裕三
-----	-----------------

農林水産大臣賞

- 山形県 ^{てんどう}天童市 (おうとう)
^{おおまち}大町 ^{せいきんくみあい}さくらんぼ生産組合
(代表者 ^{ただじゅんいち}武田順一)

組合員 12 名が水田転作の新たな取り組みとして地域の主要作物であるさくらんぼを導入し、地域内の合意形成で水田を集積し、270 a の果樹団地を造成した。

水田から樹園地への条件整備のため、暗きよによる排水対策や耕盤破碎など土層改良により、果樹生産の基盤となる園地土壌の物理性を改善し、土づくりを積極的に行っている。

栽培面では、土壌適応性が広く樹勢が強いコルト台木を利用し、雨よけテントや防霜ファン、かんがい設備などの導入により、欠木がなく、高品質・安定生産により収益性の高い生産を行っている。

地区内で初めて観光もぎとり園を開始し、生産者の顔の見える農業に取り組むとともに、大学生の農業体験研修を受け入れ、消費者に対して農業への理解の醸成に努めている。こうした取り組みの結果、農業経営の安定が図られ、後継者の確保につながっている。

本組合が先駆的に取組んだ水田の樹園地化や品質向上・安定生産技術、消費者との交流を通じた農業は、地域の模範として、果樹農業を中心とする地域農業の発展に大きく貢献している。

- 福島県 福島市 (りんご、もも、おうとう)
^{おおつき}大槻 ^{ぜんじ}善治

経営面積は 310 a の果樹専業経営であり、もも 175 a を中心に、りんご 115 a、おうとう 20 a の多品目栽培とりんごジュースなど加工品の商品化に取り組んでいる。

経営面では、農地の購入と水田の樹園地への転換で果樹面積を拡大するとともに、多品目栽培により、労力が分散して家族労働力での大規模経営が可能となるほか、天候と市場価格に左右されない安定した経営を実現している。

販売面では、贈答用の宅配を中心に直接販売に取り組むとともに、完熟りんごを原料にしたりんごジュースの商品化など多様な販路開拓と付加価値化に努めている。

技術面では、地域で初めてのりんごのわい化栽培の導入、ももの低樹高栽培など省力化技術の導入を図るほか、土壌診断による土壌改良資材やたい肥の投入、複合性フェロモン剤の使用による殺虫剤の削減など、エコファーマーとして安全・安心な農産物生産に努めている。

地域にあっては、りんご新品種試作会やフルーツ研究会の会長として、新品種導入や消費者との交流、土壌改良、りんごジュースの開発などに指導的役割を果たしている。

○ 静岡県 浜松市^{みっかひちよう}三ヶ日町 (かんきつ)
竹平^{たけひら} 伸敏^{のぶとし}

経営面積は 620 a で、うち、温州みかんが 540 a、ネーブルほか中晩柑類が 80 a の大規模かんきつ専業経営であり、全量を農協に出荷している。

経営面では、自己開墾と借地により規模拡大を図るとともに、機械導入のための基盤整備を行い、省力化及び労働時間の短縮に取り組んでいる。また、計画的な改植による適正な樹齢構成や品種構成を通じ、労力配分の平準化を図っている。

技術面では、土壌診断に基づく施肥量調整や牛糞たい肥による土づくり、樹冠上部 3 分の 1 全摘果を取り入れた徹底した摘果など連年安定生産の実現と、高畝栽培、ネット被覆、マルドリ栽培などを地域で先駆けて導入・改良し、高品質・安定生産を実現している。

特に、県内で最初に果実鮮度を長期間維持できる冷風貯蔵を取り入れ、4 月上旬まで高品質みかんの出荷を可能とするなど、計画的な長期貯蔵の先駆者である。

地域にあっては、柑橘出荷組合長としてポジティブリスト対策に取り組み、全農家に農薬・肥料の使用履歴を園地別に記帳することを徹底し、かんきつで初めての「静岡県版 GAP」取得に尽力したほか、県柑橘委員長として柑橘業界へ多大な貢献をしている。

○ 愛知県 日進市^{にっしん} (ぶどう)
福岡^{ふくおか} 憲三^{けんぞう}

316 a の経営面積のうち、ぶどうが 285 a (施設 10a を含む) を占める果樹大規模経営。生産物は経済的立地条件を活かし、全量消費者へ直接販売を行っており、6 次産業化を推進している。さらに、ぶどうの一部とかき、みかん及びキウイフルーツは、ジャムやジュースに加工して販売している。

経営面では、所有する二つの団地の標高の違いによる生育差と 20 種を超える多品種栽培により、労力分散と収穫・販売期間の長期化が可能になり、大規模経営を実現している。また、顧客ニーズに応えた品種構成を第一に、新品種の導入を積極的に図っている。

技術面では、未経験者でも作業が容易な省力型整枝法の WH 型平行整枝短梢せん定技術を導入し、せん定労力の軽減を図っている。また、たい肥中心の徹底した土づくりと減農薬により地域で最初にエコファーマーの認定を受けている。こうした高い技術と取組内容により顧客から高い評価と信頼を得ており、販売量の 7 割は贈答用として使われている。

地域にあっては、近隣の生産者とともに二つの栽培研究組織を育て、その活動は県内はもとより他都府県へと発展している。また、新規栽培者などの研修生を積極的に受け入れ指導者としての役割を果たしているほか、市の農業塾や小学校での講演など食育活動にも尽力している。

農林水産省生産局長賞

- 青森県 北津軽郡板柳町 (りんご、おうとう)
福士 忍顕 彩子

経営面積 420 a に、りんご 270 a、おうとう 20 a 及び水稲を 120 a 栽培する果樹中心の複合経営である。

経営面では、県内で先駆的にりんごわい化栽培を導入し省力化を図るとともに、地域初のおうとう雨よけ栽培を導入している。販売は J A 出荷のほかスーパー等への直接販売、ネット利用の直接販売など多岐にわたる販売先開拓と多角化で安定的な収益を実現している。

技術面では、りんごは、わい化栽培により県平均の 10 a 当たり労働時間を大きく下回り、単収も約 3.5 トンと町平均の 1.5 倍である。また、町の有機農法研究会を立ち上げ、稲わら等の有機物の有効利用など健康な土づくりを実践し、エコファーマーや特別栽培農産物の認証も取得している。

地域にあつては、町の「りんごまるかじり条例」のガイドライン委員長として活躍するほか、自ら家族経営協定を締結して経営改善を図るとともに、その普及やパソコンによる複式簿記など経営能力向上にも先導的役割を果たしている。

- 山梨県 笛吹市 (ぶどう)
笛吹農業協同組合 富士見支所ハウスブドウ部会
(代表者 横内 春夫)

昭和 48 年設立で、会員数は 47 名。ハウスブドウを 1,165 a 栽培し、生産量 150 t、出荷額 3 億円超となっている。

栽培技術面では、早期加温栽培技術の確立に積極的に取り組み、県標準加温体系の作成に寄与するとともに、農協の気象観測システムを利用し加温日の決定や日々の温度管理の参考データを部会員全員に提供してその徹底に努めている。

また、各作業段階時に部会員全員で巡回し、生育状況の確認や認識の共有化を行い、技術の向上と平準化を図っている。

さらに、2 層カーテンによる省エネルギー対策、ウイルスフリー樹への全改植、収穫終了時に母枝を切り詰め樹勢を回復させる二度切り栽培の導入、農薬使用回数の低減などにより高品質・安定生産と安全・安心を求める消費者ニーズへの対応に努めている。

こうした取り組みから、出荷したハウスブドウは市場で高い評価を受けるとともに、農協直売所においても品質の高さから贈答用に使われ、消費者から好評を得ている。また、露地とハウスによる労働分散により、規模拡大が可能となり、部会員の平均規模 110 a は県平均の 70 a を大きく上回っている。

○ 佐賀県 ^{からつ}唐津市 (かんきつ)
^{よねくら}米倉 ^{すすむ}伸

経営面積は 128 a で、ハウスミカン 100 a とハウスデコポン 28 a を栽培するかんきつ専業経営である。

経営面では、ハウスミカンのみの経営から、労力及び危険分散のためハウスデコポンを導入、また、全ての施設に自動開閉装置を設置し、省力化を図るとともに、夫婦と後継者 3 人で家族経営協定を締結し、摘果、枝吊り、収穫等の労働集中期には雇用労働を利用してゆとりある経営に努めている。

技術面では、堆肥や客土の投入と土壌分析に基づく肥料調整により土づくりに努めるとともに、結果母枝の簡易栄養診断法により適正な加温時期を把握し、適正な着花量を確保して安定的に品質と収量を確保している。さらに、循環扇やダクトの適正配置によりハウス内の温度環境を均一に保ち樹毎の着果バラツキを防止するとともに、多層被覆や廃熱回収機の設置により保温性を向上させ燃料費の削減を図っている。

地域にあっては、ハウスミカン部会長として指導的役割を果たしている。

○ 長崎県 ^{させぼ}佐世保市 (かんきつ)
^{さしかた}指方 ^{ひろゆき}博之 ^{あやこ}文子

経営面積は 511 a で、果樹を 300 a、水稻を 180 a、施設なす 31 a を栽培する果樹を基幹作目とする複合経営で、労力調整、地域雇用の活用により大規模経営を実現している。

経営面では、早期成園化のための大苗育苗、密植栽培による計画的な改植で、積極的に「させぼ温州」等優良品種を導入し、樹齢 10 年生以下の比率 70% と園地の若返りを実践している。また、樹園地の基盤整備と園内作業道を整備し機械化を進め、防除、収穫・運搬等あらゆる管理作業の省力化・効率化を実現している。さらに、早くから家族経営協定を締結し、家族間で責任部門を明確にして家族個人の農業に対するモチベーションを上げ経営効率を高めている。

技術面では、気象変動に対応した土壌水分管理、結実管理、せん定、肥培管理、薬剤防除など総合的な管理技術を確立し、高品質みかんの安定生産を図っている。また、化学肥料を一切使わず、有機質 100% にこだわり、カキがら石灰、天然由来マグネシウム、完熟堆肥等の土づくりのための資材を利用し、環境に配慮した栽培を実践している。

地域にあっては、20 年前からシートマルチ栽培に先駆的に取り組み、現在は結果樹の全園を被覆し「西海みかん」のブランド確立に貢献している。

○ 宮崎県 宮崎市 (きんかん)
宮崎中央農業協同組合 ハウス^{きんかん}金柑部会
(代表者 ^{まるやま}丸山 ^{てるよし}照義)

平成 13 年設立の選果場共同利用組織で、会員数 45 戸。ハウスきんかんを 760 a 栽培し、生産量は 218 t、出荷額は 1 億 3 千万円超である。

栽培技術面では、水田跡地の暗きょ施工、たい肥や敷きわら利用による土づくり、土壤診断に基づく適正施肥、葉面散布の実施による微量要素欠乏防止に努めるとともに、台風被害回避のための防風ネットの活用が徹底されている。

また、天井ビニル被覆による降雨遮断や高温時の遮光資材被覆、頭上かん水設備による薬剤葉面散布の省力化や高温対策等を行うとともに、整枝・せん定や摘果等の現地講習と全員での園地巡回により相互に評価、確認を行い技術の向上に努めている。

販売面では、毎週目揃え会を実施し品質のばらつき防止に努めるとともに、1 週間後の出荷計画の聞き取りとその徹底を図ることにより、紅色の濃い高品質な果実を安定して出荷できる体制づくりに努め、市場評価の維持とブランドの確立を推進している。

さらに、320 種類の農薬を一斉に分析できる「宮崎方式」残留農薬分析システムの活用と生産履歴記帳で安全・安心な完熟きんかんの出荷体制を確立している。

○ 沖縄県 ^{みやこしま}宮古島市 (マンゴー)
^{かねしま}兼島 ^{ひろみ}弘実

経営面積は 160 a で、うち 74 a でマンゴーの施設栽培に取り組んでいる。

経営面では、国の補助事業を活用して面積を拡大。3 連棟が 6 棟、2 連棟が 2 棟の施設 7,400 m²を所有し、家族 3 名と雇用 3 名で栽培管理と出荷作業を行っている。販売は県内外市場への出荷のほかスーパーと宅配を含む直接販売で、高い収益を実現している。

技術面では、ハウス内の温度管理の徹底のためすべての棟に換気扇とビニール開閉巻き上げを設置するとともに、剪定枝チップを畑のマルチングに利用・還元するなど有機質資材主体の土づくりで病気にかかりにくい樹を育成している。さらに、農薬の使用履歴記帳により過剰な農薬散布を防止し、「安全・安心・おいしい」生産に努めている。

地域にあっては、マンゴーの新規就農者への栽培管理方法を指導するとともに、平成 20 年度第 1 回県マンゴーコンテストで優秀賞を受賞し、地域の模範となっている。

全国農業協同組合中央会会長賞

- 三重県 ^{まつきか}松阪市 (なし)
^{いちしとうぶ}一志東部農業協同組合 ^{からすなしぶかい}香良洲梨部会かがやきプロジェクト
(代表者 ^{いまい}今井 ^{よしみ}快示)

梨部会活動の改善提案を行う組織として平成 17 年に設立されたプロジェクトチームである。有志 7 名と J A 及び普及センター果樹担当で構成し、後継者、労働力、園地流動化、販売対策等について調査・検討を行い各種の提案、実践を行っている。

ブランド化による有利販売のため、「海風で育つブランド香良洲梨」というキャッチコピーを考案、部会全員による「香良洲梨」名の使用統一などで定着を図っている。また、地元小学校の協力で P R 看板を作成したり、小学生がなし栽培体験をするための専用の体験梨園を設置し、児童に地元産の梨への関心を高めるとともに、その活動を新聞、テレビ等で紹介してもらい、知名度の向上を図っている。

また、安全・安心な梨づくりのため、性フェロモン剤の導入等により全戸でエコファーマーを取得している。

こうした取組みにより、販売単価が持ち直し、部会全体の士気が上がるとともに、資材の共同購入や農薬散布・施肥履歴の記帳など経営改善の効果が高まっている。

- 香川県 ^{かんおんじ}観音寺市 (なし)
^{かがわほうなん}香川豊南農業協同組合 梨部会
(代表者 ^{かわかみ}川上 ^{けいぞう}啓造)

昭和 41 年に統合設立の共同選果・共同販売組織で、部会員 51 戸が 270 a のなしを栽培し、生産量は 430 t、出荷額は 1 億 1 千万円超である。

地域の梨生産者全員が加入し、栽培技術の向上、経営の安定レベルアップに取り組んでいる。具体的には土地改良事業により畑地かんがい施設や農道を整備し、スプリンクラーによる共同防除体制を整えると同時にスピードスプレーヤーを導入し、省力化・コスト削減と地域全体の適期防除体制を形成している。さらに、共同選果場に糖度・熟度センサーを導入し、高い糖度の果実は県認証の「さぬき特選 K. ブランド」を取得し、県内外の果物専門店等で高い評価を受けている。

環境保全型農業の取組みとしては性フェロモン剤による交信錯乱剤を導入し、農薬散布回数の削減を図るとともに、果実個々に個体識別確認ナンバーを印字し、インターネットで生産者が確認できるトレーサビリティにも取り組んでいる。

また、高齢化等による廃園の防止のため、作業支援隊を組織し、管理作業用機械の共同購入により栽培管理体制を構築している。

全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞

- 岩手県 ^{にのへ}二戸市 (りんご)
^{しんいわて}新岩手農業協同組合 ^{ほくぶちいき}北部地域りんご生産部会
(代表者 ^{かわかみ}川上 ^{ゆたか}豊)

農協合併を契機に平成 14 年に設立した共同選果・集出荷組織で、204 戸がりんごを 199ha 栽培し、共同選果量 1,024 t、出荷額は 2 億 1 千万円超である。

経営面では、未収益期間が短縮出来る大苗利用の改植により若木やわい性樹へと転換を図り、高品質果実の省力的な生産を実現している。また、品種検討委員会において今後の消費動向を見据えた品種の選定を検討し、良好な果実肥大や黄色品種のリレー販売、労力軽減等から「黄香」と「シナノゴールド」、従来の「つがる」に代わる新品種として「岩手 7 号」の植栽をすすめている。

また、選果機で糖度と蜜入りを測定した「カシオペア・クイーン・サンふじ」や「カシオペア・サンふじ」などの独自ブランド化により高単価を実現している。

さらに、畑地かんがい用水のスプリンクラー利用により、開花期の霜害や夏の乾燥害の防止に効果をあげるとともに、生産履歴の記帳や生育状況の巡回確認による病気の早期発見や情報交換により高品質果実の生産に努めている。

- 和歌山県 ^{はしもと}橋本市 (かき・すもも・ぶどう)
^{さかもと}阪本 ^{たつや}龍哉

経営面積 711 a に、かき 600 a、すもも 75 a、ぶどう 20 a、かんきつ類 16 a を栽培する大規模経営で、かきが基幹の果樹専門多品目複合経営である。

経営面では、借地による経営面積の拡大を図っており全園借地である。労働力は本人と雇用 2 名を中心に、春と秋の繁忙期に臨時雇用を活用している。販売については、現在は生産に専念するためすべて農協へ出荷している。経営の合理化を図るため、摘蕾時及び収穫時には樹木 1 本毎の作業担当を決め、雇用者のやる気を高めて作業効率を上げている。こうした能力給を重視した給与体系と作業責任の明確化により、雇用者の能力向上と優秀な人材の確保が図られている。

技術面では、スピードスプレーの導入や園内道の設置により省力化を図るとともに、収穫作業の平準化を図るためかきの極早生品種への更新を行っている。また、周辺の病虫害発生状況や散布記録を基に農薬散布回数の軽減に努めている。

地域にあっては、就農当初から 4H クラブ等各種の役職を歴任し、地域農業の担い手育成や連携強化に尽力している。また、後継者のいない高齢農家から農地の担い手として期待され借地の予約も多い。

日本園芸農業協同組合連合会会長賞

- 山梨県 ^{にらさき} 韮崎市 (ぶどう・おうとう)
^{あいやま} 相山 ^{たつお} 竜夫

経営面積は 220 a で、うち果樹園 196 a にぶどう 163 a (うち雨よけ 23 a) とおうとう 33 a (全て雨よけ) を栽培する果樹専業経営である。

経営面では、農協出荷 4 割、観光農園・宅配・直売 6 割の販売多様化で安定した収入を確保している。宅配では固定客と口コミで毎年安定した顧客の確保が図られている。

技術面では、おうとうの摘み取り観光農園に適した県果樹試験場開発の雨よけハウス Y 字仕立て栽培をいち早く導入し、栽培技術確立と普及に尽力した。また、強粘質土壌の改良に下層まで効率的に深耕できるホールディガーを独自に改良・導入し、経済栽培南限で結実不良になりやすいおうとうの結実の安定化を図っている。

また、ぶどうは消費者ニーズの多様化に対応するため、種無し「ピオーネ」等の「巨峰」群品種を中心に 15 品種を栽培し、雨よけ栽培や少量多回数かん水の水管理、肥培管理で安定的に高品質生産を実現している。

地域にあつては、JA 梨北さくらんぼ専門部会長として地域農業の発展に貢献している。

- 大分県 ^{つくみ} 津久見市 (かんきつ)
^{けんなんかんきつけんきゅうかい} 県南柑橘研究会ハウスデコポン研究会
(代表者 ^{わだ} 和田 ^{ともよし} 友義)

平成 14 年に設立された有志 7 名の研究会組織。ハウスみかん産地で「不知火」の施設栽培について研究活動を積極的に行っている。

集団活動として、研修会開催や会員相互の園地巡回、先進地視察による栽培技術の向上や販売計画に基づく生産活動に努めている。

特に、果実品質の向上では、1 月上中旬の加温などのみかん栽培技術を応用し、全国でも最も早く 11 月から出荷し、大玉で酸切れが良く年末の贈答用として高単価で取引きされている。

安全・安心な果実生産では、農薬の使用回数制限、栽培管理記帳の徹底、土壌診断による施肥量調整、有機物の積極投入、多重被覆による保温効果の向上、栽培管理の温度設定の見直し等環境に配慮しつつ、コスト低減に積極的に取り組んでいる。

こうした取組みは、ハウスミカン生産者には原油価格の高騰対策として、「不知火」の露地栽培生産者には水腐れ症などの生理障害に対する被覆効果が注目されている。

全国果樹研究連合会会長賞

- 鳥取県 鳥取市 (なし)
はしもと たもつ
橋本 保

経営面積は 153 a で、果樹園 140 a に日本なしを栽培する果樹主体の経営である。なしの種類は露地青梨 108 a、網掛け青梨 12 a、露地赤梨 20 a である。

経営面では、鳥取砂丘から 1 km の園地で観光農園と宅配等の直接販売をしており、農繁期の雇用以外は家族労働中心で行っている。

技術面では、主体の「二十世紀」は進物の注文が多いことから、早めの摘果、小袋掛けで見た目の向上と全園かん水による大玉生産を行っている。また、除草剤に頼らない雑草管理として草生栽培に取り組み、すべての園で除草剤の使用をとりやめたほか、農薬散布回数を削減するため、黒斑病に強い品種の「おさゴールド」や「新甘泉」へ順次更新し、消費者の求める安全・安心な梨栽培を実践している。さらに、独自の整枝法「オールバックかずら枝 4 m 整枝」により、子供から大人まで収穫しやすい高さと通りやすさを確保している。

地域にあっては、網掛け施設によるカラス被害対策について指導的役割を果たすとともに、大玉生産に効果的なかん水施設の普及に貢献している。

- 大分県 杵築市 (かんきつ)
うめだ こうじ
梅田 浩司

経営面積は 110 a で、6 棟 60 a の施設にハウスミカン を 31 a、ハウスデコポンを 21 a、ハウスカボスを 8 a を栽培するほか、露地みかん 50 a を栽培する果樹専業経営である。

経営面では、労力分散と危険分散のため、施設栽培ではハウスミカンから一部をハウスデコポンとハウスカボスに改植し、また、露地みかんはすべて優良系統に改植してマルチ栽培を実施するなど経営の安定化を図っている。また、全ハウスをバンドレスに改造強化し、省力化と気象災害軽減を図るとともに、多重被覆や RPF ボイラー（プラスチック＋古紙が燃料の暖房機）を導入して暖房用燃油の使用料低減によるコスト低減に取り組んでいる。

技術面では、着花を確保する加温管理とヒリュウ台使用、糖度向上にタイベック使用、粘着トラップによる害虫の早期防除などにより青果（生食用）率の向上に努めている。

地域にあっては、柑橘研究会施設中晩かん部会長等を歴任し、「おおいた早生」のマルチ栽培やハウスデコポン栽培技術確立と普及に指導的役割を果たすとともに、RPF ボイラー導入ハウスの実証圃を設置するなどその導入普及に貢献している。

(財) 中央果実生産出荷安定基金協会理事長賞

- 北海道 ^{すながわ}砂川市 (りんご、なし、プルーン、ブルーベリー)
^{みたに}三谷 ^{まさる}將

経営面積は樹園地 450 a で、りんご 390 a を主体に、なし 20 a、プルーン 20 a、ブルーベリー 20 a を組み合わせた多樹種の果樹専業経営である。

経営面では、「りんごのオーナー制」を取り入れた観光果樹園を中心に、生産物は園内の交流施設も兼ねた直売所を中心に販売するほか、委託加工したりんごジュースの販売や宅配も行っている。ブルーベリーは「もぎとり園」も実施している。さらに、都市住民との交流や子供たちが果樹生産に触れ合うイベントを主催し、農業に対する地域住民の理解を深める活動を積極的に進めている。

技術面では、病虫害防除、摘花、摘果作業その他の基本技術を徹底し、その上で樹勢調整に配慮した栽植密度や品種、樹種を組み合わせることで省力化を意識した効率的な高品質果実生産を実現している。

地域にあっては、市の果樹組合の組合長として地域果樹農業振興のリーダー的役割を果たしている。

- 秋田県 ^{かづの}鹿角市 (もも)
^{かづの}農業協同組合 ^{ほくげん}北限の桃生産部会
(代表者 ^{さとう}佐藤 ^{はじめ}一)

これまでの生産出荷グループの組織強化を目的に平成 18 年に設立した部会で、りんご生産者を中心に、160 戸がももを 5,300 a 栽培、生産から販売までを統一行的に行っている。

全国の主産地に比べ年平均気温差が低いことを利用して、全国他産地の出荷が少なくなる 9 月中旬に出荷できる高単価の「川中島白桃」を中心に栽培している。このため、地域の気象、土壌に適応した栽培技術の確立と指導のため「特産北限のもも栽培マニュアル」を作成し、技術の向上と平準化を図っている。特に、共同選果、共同販売のため栽培技術や出荷規格を統一するため、講習会や出荷目揃会を活発に行っている。

販売面では、国内のほか台湾向けの輸出を行い、台湾側の高い輸入基準等をクリアする取り組みにより、デパート等果実専門店で高い評価を得ている。

地域にあっては、ももはりんご栽培技術と共通していて導入しやすく、また、早い時期に収入を確保できるので、価格が低迷しているりんご農家の経営改善に寄与している。

全国果樹技術・経営コンクール実行委員会委員長特別賞

- 大阪府 ^{はびきの}羽曳野市 (ぶどう)
^{あすかわ いん かぶしがいしゃ}飛鳥ワイン株式会社 ^{なかむら ゆうぞう}仲村 裕三

経営面積 152 a にぶどうを栽培し、ワインの製造・販売を行っている。

経営面では、生産と加工・販売を組み合わせた経営で、本人夫婦と雇用4名で栽培管理と製造販売を行っている。自社栽培に加えて周辺農家からも原料ぶどうを購入し、ワイン製造により安定した周年雇用を確立している。ワインは地元産「飛鳥ワイン」として自社販売のほか地元直売所でも販売している。

技術面では、ボルドー液中心の病害防除と芝の草生栽培による雑草抑制、ワイン絞りがすとぶどうせん定枝でリサイクルたい肥を製造・活用するなど環境保全型農業に取り組んでいる。こうした取組みから大阪府エコ農産物制度の加工品認証の第1号を受けており、売り上げの向上にもつながっている。

地域にあつては、地元農家から生食用ぶどうの規格外品を加工用として購入しているほか、担い手のいない園地の借り上げや省力化が可能な加工用ぶどうの契約栽培などにより、地域の園地の廃園化防止や農業雇用の確保に寄与し、地域果樹農業の維持発展に貢献している。